

埼臨技だより

発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会

〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7 TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095

URL:<http://www.sairingi.com/> 携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

平成25年度 公益社団法人埼玉県臨床検査技師会 臨時会員総会が開催される

平成25年度公益社団法人埼玉県臨床検査技師会臨時会員総会が平成26年2月20日(木曜日)に大宮ソニックシティ603号室にて開催された。本臨時会員総会の議案審議内容は、社団法人埼玉県臨床検査技師会平成25年度事業報告および収支決算報告、公益社団法人埼玉県臨床検査技師会平成25年度事業計画案および予算案であった。

総会の前に第42回埼玉県医学検査学会での各賞受賞者表彰が行われた。小関学術部長の紹介で優秀発表賞に松本真紀子氏(浦和医師会メディカルセンター)、秋山功氏(株式会社ビー・エム・エル総合研究所)、青木政典氏(埼玉医科大学国際医療センター)、田中じゅん氏(防衛医科大学校病院)、民田智美氏(戸田中央医科グループ 戸田中央総合病院)、関口知詠子氏(埼玉県済生会栗橋病院)、落合仁美氏(埼玉県済生会栗橋病院)、酒井美恵氏(上尾中央医科グループ 上尾中央総合病院)、学会長特別賞に濱本隆明氏(防衛医科大学校病院)、波木井裕之氏(埼玉医科大学総合医療センター)、渡辺保加氏(埼玉医科大学国際医療センター)、埼臨技奨励賞に安達亜里沙氏(東邦大学理学部生物学科臨床検査技師過程)、高安健人氏(埼玉県立大学 保健医療福祉学部 健康開発学科 検査技術科学専攻)、市川梨紗氏(埼玉医科大学保健医療学部健康医療科学科)の各氏が受賞された。受賞された方々に謹んでお祝いを申し上げたい。

総会は矢作強志事務局次長の進行により砂川進会長の挨拶が行われ、大雪における会員へのお見舞いの言葉を述べられた。

次に出席者から飯田眞佐栄氏(株式会社アムル)が議長に選出され、飯田議長の進行により総会役員が指名された。資格審査委員長に奈良豊総務副部長、資格審査委員には東部地区から永野栄子氏(獨協医科大学越谷病院)、南部地区は穴原賢治氏(上尾中央総合病院)、西部地区は山本英俊氏(株式会社ビー・エム・エル総合研究所)、北部地区は原誠則氏(壮幸会 行田総合病院)が任命された。また、書記に鈴木由美子氏(浦和医師会メディカルセンター)、武藤由里子氏(医療生協さいたま生活共同組合川口診療所)、議事録署名人に手塚康晴氏(さいたま市立病院)、小松正人氏(さいたま赤十字病院)が任命された。



飯田議長より「18時30分現在の出席者数82名、委任状出席者数1553名、議決権行使書数181名合計1816名は、第1から4号議案を審議するための必要者数である全会員数2327名の過半数を越えており定款第18条の規定により本総会が成立しています」と宣言された。

議事審議は、奈良資格審査委員長より議事日程が提案され、それに沿い飯田議長の進行により社団法人埼玉県臨床検査技師会平成25年度事業について砂川会長、津田聡一郎副会長、神山清志副会長から、収支決算について島村益広会計部長から、監査については遠藤敏彦監事より報告があった。会計に関して『一般会計から学会特別会計へ出された金額については拠出なのか、一時的な前渡金もしくは仮払金なのか』という質疑について島村会計部長より『大宮ソニックシティからの賃借料金前納へ対応するため拠出という形をとった』と回答があった。また議案書の『埼玉県健康福祉部は現在、埼玉県保健医療部である。』とご指摘および修正のご発言の後、満場一致で議案は可決された。



次に公益社団法人埼玉県臨床検査技師会平成25年度事業計画案が砂川会長より、予算案が島村会計部長より上程された。質疑等はなく議案審議後満場一致で可決された。これにてすべての臨時総会議案進行は終了し、総会役員、書記が解任となり議長の挨拶が行われた。

引き続き、第43回埼玉県医学検査学会実行委員長の飯田眞佐栄氏よりご挨拶および臨時総会に出席されていた実行委員のご紹介があった。

公益社団法人となり初めての会員総会は、飯田議長による円滑な進行と出席してくださった会員の皆様のご協力により滞りなく閉会することができました。改めて御礼申し上げます。

(文責：長岡勇吾)



第42回埼玉県医学検査学会各賞受賞の皆様

平成25年度第2回 検査室運営研修会 医療安全研修 Part-2 ～ 安全のためのコミュニケーション「確認」と「復唱」～ 開催される



検査室管理運営委員会主催の、平成25年度第2回検査室運営研修会が、去る2月25日(火)19時より大宮ソニックシティ906号室において開催された。

今年度も管理・監督者だけでなく幅広い年齢層の検査室を実際に動かしている皆様に参加していただきたく、非常に奥の深い医療安全をテーマに、2回に分けて研修会を企画した。第2回目となる今回の研修は、講師に自治医科大学医療安全対策部の長谷川剛教授をお招きし、— 安全のためのコミュニケーション「確認」と「復唱」— をタイトルにご講演いただいた。研修会当日は天候にも恵まれ、参加者も施設会員48名・賛助会員5名で、医療安全

に対する皆様の関心の高さが窺えた。

講演は冒頭より、誰もが知っている日本国内最大級の医療事故の分析から始まり、会場の参加者の心がかまれた感じがあった。続いて国内および海外の医療関係のドラマの医療事故に関する一場面や実際の手術室での生々しい映像からエラー発生の要因分析・解説など、ドラマの医療監修にも携わった先生の話術・技法は、機関銃のように会場の参加者を襲い、最後まで飽きさせないまま予定時間の1時間30分を大きくオーバーするまで熱く語られ、盛況のうちに研修会は終了となった。

多くのエラーの要因にはコミュニケーション不全がある。矛盾に気がついても自分の都合の良いように解釈してしまう(合理的解釈)。思い込みは簡単には解除できないなどヒューマンエラーに伴い事象が起こってしまっていること。テクニカルスキルを補う認知能力・社会能力・周りの力を活用する能力などノンテクニカルスキルを教育することにより医療現場での間違い(エラー)の多くは未然に防げるとのこと。アクシデントの改善策で良く出てくるダブルチェックについても同じタイミングで同時にチェックするより、タイミングをずらしてのチェックや逆方向からのチェックなどの工夫をすることで精度が上がる。“おや、おかしいな!?”と感じたことを伝える技術・・・言い方ひとつで状況が変わってくることを意識することなど安全を考えたコミュニケーション能力は、参加していただいた皆様において各自施設での実践が期待されることと考えられた。また、自分へのコミュニケーションとして、視覚的確認より脳を3倍使うとされる“指差し呼称”など古典的な確認や年齢とともに記憶が低下進行中の私達(高齢の)にとって“復唱・メモ”が重要であることなど、先生より数え切れないほどのお土産を頂いた研修会であった。

終了後、参加した皆様より“研修会、素晴らしかった”“先生が良かった”“聞き入ってしまい時間を忘れてしまった”など感想をいただき、企画した委員一同嬉しく感じた。

最後に検査室管理運営委員会として、研修会に足を運んでいただいた大勢の皆様に、研修会内容でも出てきたキーワード“ありがとう”の言葉を贈らせていただきたい。

(文責：藤井豊善)



平成25年度 公益社団法人 臨時会員総会 創立60周年記念・公益法人創立記念式典 祝賀会のご案内

日 時：平成26年3月21日(金) 13:30～18:00

会 場：ラフレさいたま 桜の間(3階)・桃の間(5階)

会 費：10,000円(祝賀会について 正会員・賛助会員一律)

第43回埼玉県医学検査学会のご案内 ～その3～

副実行委員長兼事務局長 岡田 茂治

第43回埼玉県医学検査学会実行委員会の経過報告をいたします。実行委員会は5回開催され、予算案、公開講演、教育講演、学会企画セミナーさらに学会表紙やタイムスケジュール、会場打ち合わせ、プログラムの時間割調整まで具体的に検討が進んでいます。すでに公開・学術講演の先生とのスケジュール調整も済んでいます。事務局長として進捗スケジュールを管理していますが、過去に経験した実行委員会と比べても進行が早く、この実行委員会の実行力のすごさとまとまりの良さを感じています。袴田学会長と飯田実行委員長のもと各施設から推薦された実行委員の意気込みとやる気を感じずにはられません。



学術部では少しでも多くの会員に学会参加をしていただけるよう、本学会ならではの特色ある学会企画を企画するべく、武関学術部長を中心に各委員から活発にアイデアを募り議論をしています。いままで学会に参加したことがなかったけれど、ぜひ参加してみたいと思ってもらえるような魅力ある企画や遠くの学会へは参加できないけど、いつも研修会が開催されている大宮ソニックシティが会場ならば参加してみようと思っただけ

ようなより身近で実践的な企画、タイムリーな話題、今後の臨床検査技師について考えるような企画、研究テーマのヒントになるような情報などなど、いろいろな会員のニーズを顧慮し検討を重ねています。いったいどんな企画になるのか楽しみにしてください。

運営部では学会当日のスムーズな受付と生涯登録の運用、立ち見となってしまう発表会場の運営改善、エレベーターによる会場移動の不便などソニックを会場とした時の過去の問題点を改善するべく検討を加えます。また公開講演では少しでも多くの市民の方々に参加していただき、臨床検査技師という職業を知ってもらい、医療スタッフとして信頼してもらえるよう市民への広報を充実させ「知名度あげる」機会を作りたいと思います。



本学会に参加することは、埼玉県技師会員にとって自然のここのようになればと思っています。本来の地区学会の役割と必要性を再認識しつつ固定概念に縛られず自由な発想ができる実行委員会になればと思います。これからの学会情報にご注目ください。



埼玉県技師会OB会入会のお誘い

埼臨技OB会は、定年退職された方や永く賛助会員として勤め上げた方で組織し、国内・海外旅行、懇親会、娯楽等を開催し親交を深めています。また、埼臨技学会参加等、埼臨技事業にも積極的に参加し、埼臨技との変わらない絆を大切にしています。

OB会の趣旨、活動に賛同し入会を希望する方は、下記記載のメールアドレスまたは電話で問い合わせいただきたくご案内申し上げます。

E-mail : sairingi-ob@sairingi.com

Tel : 048-824-4077

●第43回 埼玉県医学検査学会●

一般演題の募集について

学術部長 武関 雄二

平成26年4月1日より、一般演題の募集を開始いたします。今月号では、申し込み方法についてお知らせいたします。たくさんのご応募をお待ちしております。

1. 演題申し込み資格

- 1) 発表者および共同発表者は平成26年度の技師会費を納入した方に限られます。
- 2) 共同発表者は原則会員とし、7名以内です。
- 3) 非会員の共同発表者は抄録掲載料として、年会費の半額(2,500円)を申し受けます。
※非会員の共同発表者がおられる場合は、学会事務局(048-912-3110)へ連絡してください。
- 4) 学生の発表は無料とします。

2. 演題、抄録原稿の申し込み方法

- 1) 日臨技総合情報システム(JAMTIS)にて受付します。(注:日臨技パスワードが必要です)
※本学会ホームページからJAMTISにリンクできます。
- 2) 学生の方、コマーシャル演題は演題申込書、抄録原稿ファイルを本学会ホームページからダウンロードし、電子メールや郵送で受付します。

3. 抄録の作成要領

- 1) 日臨技総合情報システム(JAMTIS)を利用したWebによる抄録登録をしてください。
(注:日臨技パスワードが必要です)
テンプレートファイルをダウンロードし、抄録を作成後アップロードする方法もあります。
- 2) 学生の方、コマーシャル演題は、本学会ホームページから一般演題抄録テンプレートファイルをダウンロードし、ワープロファイル(Microsoft Word)を使って抄録を作成してください。
- 3) 本文は26文字×18行×2段組=936文字以内です。

4. 原稿受領等の通知について

「受領メール」は、演題・抄録登録(変更)時に自動送信されます。受領メールが届かない場合はメールアドレス・登録手順を確認してください。数日経過しても届かない場合は、お早めに学会事務局(048-912-3110)へお問い合わせください。また、学生演題の「受領メール」は、演題・抄録受付後、数日中にメールアドレス先に送信します。

5. 演題・抄録 受付開始日:平成26年4月1日(火)

演題締切日:平成26年7月15日(火)

抄録締切日:平成26年8月18日(月)

※演題・抄録の締切日の延長は、原則として行いません。

6. 発表形式

パソコンを使用した口演形式で行います。

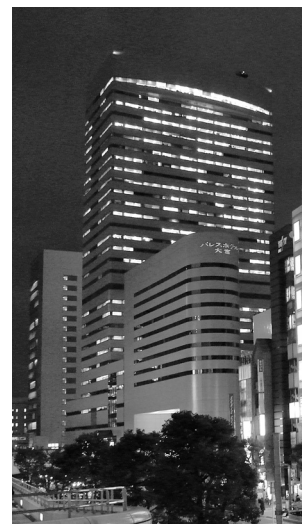
レイアウトずれを防ぐため、パワーポイントのスライドサイズ指定は「35mmスライド」に設定してください。

《動画使用の注意》

コーデックはMPEG1、MPEG2、MPEG4/AVC(H.264)、DivX、WMVをご使用ください。解像度は720*480ピクセル程度とし、デジタルハイビジョンやフルハイビジョンは避けてください。動画再生が不安な場合は複数の形式をご用意ください。

7. 記憶媒体

- 1) USBメモリーまたはCD-Rを使用(CD-RWは不可)してください。
- 2) 発表ファイルのみ保存した媒体を12月10日までに学会事務局へ送付してください。



8. 申し込み演題の採否

- 1) 採否については実行委員会に一任願います。
- 2) 「採否および日時・会場」は、後日電子メールもしくはハガキにて通知致します。

9. 詳細については第43回埼玉県医学検査学会のホームページをご覧ください。

10. 郵送先、問い合わせ先

〒340-0808 埼玉県八潮市緑町1-23-24
 (株) アムル上尾中央臨床検査研究所 検査科
 第43回埼玉県医学検査学会 実行委員長 飯田 眞佐栄 宛
 TEL : 048-912-3110 (直通) E-Mail : masaei.iida@achs.jp



関甲信・首都圏支部 人材育成研修会に参加して

平成26年 2月 1日、関甲信・首都圏支部 人材育成研修会が、山梨県石和温泉ホテル甲斐路にて開催されました。埼臨技からは砂川会長、津田副会長、神山副会長、小関学術部長と女性3名の計7名で参加いたしました。

テーマは『一瞬を捉える力～継続する力』で、講師は霜田圭吾先生（山梨日日新聞社 編集局次長）の「～撮影もよま話～ 写真が教えてくれたこと」と小林久先生（㈱スーパーやまと 社長）の「地域とともに100年～ローカルスーパー奮闘記」でした。

どんな話か想像が付きませんでした。どちらもとても興味深いものでした。霜田先生は、オウム真理教の麻原彰晃が逮捕され護送車で運ばれる時の顔の写真を唯一撮影できた方で、その写真は当時、全世界に報道されたそうです。護送車の中の容疑者の顔写真を撮影しようと500人以上のカメラマンがシャッターを切りましたが、霜田先生の写真だけが麻原彰晃の顔がはっきりと写っていたそうです。撮影場所の選定やタイミングなど入念に調べた結果が大きな功績となりました。日々継続する力があるから、一瞬を捉える力があるという言葉が印象に残りました。

また、小林久社長は、生ゴミやペットボトルの回収などをスーパーで行いポイントを付けるなど地域に根ざし、「おにぎり一つ買えない“買い物難民”の受け皿として、まちなかに暮らしている住民の食生活をカバーできる店にしたい」と、大手スーパーがまねできない小回りのよさを強みとする経営を行い、山梨県内に11店舗のスーパーを展開されています。毎日、当たり前のことをたんとやるのが大事と言っておられました。どちらも参考にすべき内容が多く、貴重な研修会でした。参加させていただきましてありがとうございました。

(文責：小島徳子)

埼臨技ひろば

埼臨技有志ゴルフコンペのお知らせ

- 日 時：平成26年5月25日（日） 7：28 インスタート
- コ ー ス：大麻生ゴルフ場
- 参 加 費：4,000円+プレー費14,000円（昼食込み）
- 募集人数：5組20名
- 幹 事：遠藤 敏彦（川口市立医療センター） 打田 孝枝（埼玉社会保険病院）
- 申 込 み：打田まで（4月25日締め切り）
 TEL : 048-832-4951 (内) 1311 E-mail : saitama-kensa@xug.biglobe.ne.jp
 件名は「ゴルフコンペ申込み」としてください。



たくさんの方の参加をお待ちしております。

各研究班の研修会報告を致します。

テーマ 「婦人科の超音波診断」～腹部領域として必要な基礎知識を理解する～

主催 生理検査研究班

実施日時：平成25年 9月21日 14時30分～16時00分

会 場：大宮法科大学院大学 講堂 点数：専門教科－20点

講 師：宇治橋 善勝（北里大学病院）

参加人数：会員65名

出席した研究班班員：野本隆之 仲野浩 瀧沢義教 家城正和 高梨淳子 早川勇樹
関口知詠子 宮原広 田名見里恵 横尾愛

研修内容・感想など

婦人科領域の超音波に携わっている技師は多いが、月経周期で見え方が変わり、時に巨大な腫瘍を経験するなど難解であるために、婦人科領域を苦手とする技師は少なくない。今回の講演は私のような苦手な技師にとっては大いに参考となる講演であった。

講演は解剖に始まり、総論として描出のコツと月経周期と見え方、婦人科領域の主な症状、各論として子宮筋腫、子宮癌、子宮留水症、卵巣腫瘍、卵巣がん、婦人科疾患とDVTの関係、婦人科領域の急性腹症、骨盤内感染症と多岐にわたった。

紙面の都合上、詳細な内容までは掲載できないが、症状に下腹部腫瘍感があれば子宮筋腫、子宮体癌、子宮留水症、卵巣腫瘍などを疑い、これらはしばしば巨大腫瘍形成する。腹部膨満感や腹水があれば、癌性腹膜炎、胃癌、肝癌、膵癌、卵巣癌、子宮体癌を疑って検査するなど実際の検査に直ぐに役立つ講演であった。

MRIを含めた多くの画像の供覧と解り易い講演をいただいた宇治橋先生に改めて感謝いたします。（文責：仲野 浩）

テーマ 検査のポイントを理解しよう！ 「グラム染色と材料別検査法」

主催 微生物検査研究班

実施日時：平成25年11月15日 19時00分～20時30分

会 場：埼玉会館 7 B会議室 点数：専門教科－20点

講 師：小栗 豊子（亀田総合病院）

参加人数：会員72名 賛助会員7名 非会員4名 学生1名

出席した研究班班員：永野栄子 古畑健司 渡辺典之 佐藤香里 荻野毅史 砂押克彦
金田光稔 酒井利育 牧俊一 小西光政

研修内容・感想など

今回は「グラム染色と材料別検査法」をテーマとして、現場での教育、検体採取の重要性、グラム染色から起菌の推定について講演をしていただいた。

微生物検査の技師の教育では、設備装置や各種機械（安全キャビネット、孵卵器、冷蔵庫など）の正しい使用法をマニュアル化し基礎教育を行っている。また、マニュアルの作成だけでなく塗抹標本の作製、染色、鏡検から結果の解釈など詳細なカリキュラムを確立し、基本的知識と技術が習得できるようにしている。

検体採取の良否は検査結果を左右する重要な要因である。検体採取方法は検査室側から提示し、特に喀痰は臨床側と事前に相談し取り決めをすることで、品質の悪い喀痰は採り直しを依頼することができる。糞便は性状から起菌を推定出来るので、色調、性状（固形、泥状、タール、水様など）、血液混入の度合いなど肉眼的性状の観察がとても重要になる。尿においては、患者状態、尿中菌数、白血球エステラーゼおよび検出菌の種類によって103CFU/ml以下でも起菌になると解説していただいた。

グラム染色は、菌種の推定、炎症像の有無、抗菌薬の選択、治療効果の判定ができ、迅速検査として重要視されている。グラム染色から有益な情報を引き出すには、適切な検体採取、保存、輸送、標本作製、染色の手技、鏡検所見から洞察する技量があるかにかかってくることを再認識することができた。

今回の研修会の内容を十分に理解し、今後、さらに技術や知識を身につけたいと思った。

（文責：永野栄子）

テーマ トロポニンの基礎と最新の話について

主催 血清検査研究班

実施日時：平成26年 1月17日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 603号室 点数：専門教科－20点

講 師：土田 貴彦 氏（アボットジャパン株式会社）

参加人数：会員32名 賛助会員 1名

出席した研究班班員：齊藤雅一 佐野悦子 大島まり子 鈴木淳子 相坂由里子

研修内容・感想など

心筋トロポニンは、急性心筋梗塞や不安定狭心症といった急性冠症候群（ACS）の診断に有用とされる心筋特異性の高いバイオマーカーである。今回、高感度心筋トロポニンI測定試薬を開発した 土田氏を講師に招きご講演いただいた。

トロポニンと聞くとTとIを思い浮かべるが、トロポニンTは腎機能の低下により高値化することから、心筋障害の指標としてはトロポニンIの方が優れているとされる。心筋障害後3～4時間で上昇。高感度測定によりCK-MBが上昇しない程度の微小心筋障害の発見も可能となる。そのためACSの診断はもちろんのこと、潜在性心筋障害の検出にも応用がきく。慢性的な非虚血性心疾患でも上昇することから、トロポニンの持続的な上昇が心不全患者の予後不良の指標となるというデータも示された。

現在、JCS（日本循環器学会）慢性心不全治療ガイドライン2010年改訂版にて心筋トロポニン濃度測定が追加されたことから注目を集めている。急性期診断における問診や心電図等と併せた心筋トロポニン測定の有用性ととともに、心疾患リスクの早期把握や予後の予測など、多様な測定意義を知ることができた研修会であった。（文責：相坂由里子）

**テーマ 今年は血液二級試験・認定試験の合格に向けて全面サポート
スタートダッシュチャンス！****1) 症例検討会 + 2) 溶血性貧血について**

主催 血液検査研究班

実施日時：平成26年 1月30日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 905号室 点数：専門教科－20点

講 師：1) 血液研究班員

2) 秋場 俊一（株式会社 シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス HHS事業部）

参加人数：会員58名

出席した研究班班員：星孝夫 網野育雄 根岸永和 羽鳥浩司 田中正 原誠則 圓田和人
橋口恵子

研修内容・感想など

症例検討は、骨髄増殖性疾患である本態性血小板血症（ET）、骨髄線維症（MF）～M7に移行が示唆される例、および多発性骨髄腫の症例について昨年同様シーメンス社よりトータライザーの機器をお借りし、途中2、3設問を入れ問題提起をしながら進めていった。末梢血の血球形態の情報が疾患に結び付いていくケースはどこの施設でも起こりうるもので、基本形態のみではなく、こうした検討会に出来る限り足を運び、症例に遭遇した時にいつでも引き出しから出せるよう、経験値を積み重ねておく必要があると改めて痛感した。

溶血性貧血の講演では、赤血球回転等の基礎から魚類の赤血球について、さらには貧血の種類別に自動血球分析装置ADVIA2120iのRBCパラメーターを用いてのデータの見方について、分かりやすく解説していただいた。（文責：橋口恵子）

テーマ 細菌検査のポイントを学びましょう！「腸管病原菌の同定方法について」

主催 微生物検査研究班

実施日時：平成26年 2月6日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 601号室 点数：専門教科－20点

講 師：児玉 加奈子（株式会社ビー・エム・エル総合研究所）

参加人数：会員48名 賛助会員8名

出席した研究班班員：永野栄子 古畑健司 渡辺典之 佐藤香里 金田光稔 砂押克彦
酒井利育 牧俊一

研修内容・感想など

今回は「腸管病原菌の同定方法について」をテーマに、性状確認培地の組成と反応機構、病原細菌のコロニーの特徴と生化学的性状、鑑別のポイントについて講演していただいた。

近年、自動機器の普及に伴い、用手法で検査している施設は減少してきていると思われる。しかし、全ての検出菌が自動機器で同定できるわけではなく、*Aeromonas sp.*や*Vibrio sp.*など自動機器では同定できない場合がある。病原菌の検出には技師の技量（観察力）が要求され、見落とさないことが重要である。自動機器の結果を鵜呑みにするのではなく、発育したコロニーの形態や臭い、生化学的性状の特徴を覚え、より正確な同定結果を導き出す必要がある。

自分自身、自動機器に依存していることが多く、用手法の重要性を痛感した。

今回の講演で基本の重要性を再認識することができた。病原菌を検出するためにも、知識や技術を身につけ、勉強したいと感じた。
(文責：渡辺典之)

テーマ 病理検査室でのバイオハザード対策

主催 病理検査研究班

実施日時：平成26年2月7日 19時00分～21時00分

会場：浦和コミュニティーセンター 点数：専門教科ー20点

講師：菅野 優（独立行政法人国立がん研究センター中央病院）
秦 夏紀（北里大学メディカルセンター）
吉岡 浩明（埼玉県立がんセンター）

参加人数：会員34名 非会員2名

出席した研究班班員：沼上秀博 荻真里子 金泉恵美子 岡村卓哉 三鍋慎也 細沼佑介
関口久男 高橋俊介 森田繁

研修内容・感想など

近年、労働環境改善のひとつとして、感染予防対策が求められている。我々病理従事者は、新鮮材料の取り扱いや病理解剖介助など感染機会に遭遇することが多く、日々気をつけなければならない。このような背景から、病理検査室でのバイオハザード対策について研修会を開催した。

菅野技師は、初めに職場の設備やレイアウトを紹介し、設備面からの感染予防を述べられた。そして術中迅速組織検査での感染性検体について、肉眼所見での特徴とその対応方法、および標本作製まで実施した時の対処法を講演していただいた。

秦技師は、針刺し傷創事故に対して病理検査所属技師と検査所属技師との発生業務内容、経験年数、感染症の有無等の分析を行い、他施設へ同様の内容でアンケートを行った結果も取りまとめて報告をされた。血液による感染症の感染確率・原因・方法などまとめた講演であった。

吉岡技師は、適切な手洗い、予防衣の着用方法や順序と病理検査室での感染源となりうる場所等スタンダードプリコーションについて講演していただいた。またQFT検査とT-SPOTについての測定原理とそれぞれの特徴も説明していただいた。

各施設では感染防止対策を積極的に進め、安全な労働環境の改善に努めて行くべきと感じた研修会であった。
(文責：森田 繁)

テーマ 高感度HBs抗原の臨床的有用性とHBV再活性化対策

主催 血清検査研究班

実施日時：平成26年2月18日 19時00分～21時00分

会場：大宮ソニックシティ 604号室 点数：専門教科ー20点

講師：江川 孝則（富士レビオ株式会社）

参加人数：会員24名 賛助会員7名

出席した研究班班員：齊藤雅一 庄司和春 相坂由里子 鈴木淳子 持田和紀 佐野悦子

研修内容・感想など

2)次年度の「検査と健康展」について

4 学術部

- 1) 4月・5月生涯教育プログラム、2月15日発行予定
- 2) 2月4日、12日、学術部主催地区別研修会が開催された。

5 精度保証部

6 会計部

- 1) 平成25年度会費1名5,000円、入会金1名500円、合計5,500円の入金があった。

7 精度管理委員会

8 一都八県会長会議

- 1) 各都県主催研修会への他都県会員の参加資格について
都臨技以外は日臨技会員であれば参加資格に差を付けずに研修会を運営している。
- 2) 今後の支部学会の在り方について
関甲信支部長・首都圏支部長からの合同開催要望書に加え、一都八県会長会議の9都県会長連名の要望書も併せて日臨技に提出することとした。
- 3) 来年度人材育成研修会の開催について
人材育成研修会は埼玉県臨床検査技師会が担当して開催することとなった。

9 関甲信支部

平成26年2月2日(土)、平成25年度第2回関甲信支部幹事会が開催された。

ア 平成25年度支部学会について

直井学会長、門馬実行委員長よりお礼が述べられた。参加者数は約1,000名、公開講演には約1,400名の参加があった。尚、優秀演題賞3演題が報告され承認された。

イ 平成26年度支部学会について

鬼怒川温泉ホテル三日月にて9月27日(土)・28日(日)に開催される。

ウ 平成26・27年度日臨技理事推薦について

当会の岡田茂治理事を推薦し承認された。今後、支部より日臨技に正式推薦を行う。

10 第43回埼玉県医学検査学

1月28日、第4回実行委員会が開催された。

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(会費納入済)(平成25年度分)
会員数 2,317名
(新入会員200名[平成24年度会員数2,256名])
賛助会員 72社[平成24年度 69社]
平成26年2月5日現在
- 2) 2月20日、臨時会員総会時程表について
- 3) 埼玉県内技師養成施設からの卒業式および入学式出席依頼について三役及び松岡理事

が対応することとした。

- ・ 埼玉医科大学保健医療学部
3月8日(土):松岡理事
- ・ 東武医学技術専門学校
3月9日(日):神山副会長
- ・ 埼玉県立大学
3月14日(金):前原事務局長
- ・ 西武学園医学技術専門学校
3月14日(金):津田副会長
- ・ 文京学院大学
3月15日(土):祝電対応

2 総務部

- 1) 第43回埼玉県医学検査学会予算案について
- 2) 第43回埼玉県医学検査学会ホームページ開設について

3 事業部

4 学術部

- 1) 平成26年度研究班員について
- 2) 平成26年度研究班活動計画について

5 精度保証部

6 会計部

Ⅳ. 議事の経過の概要およびその結果

定款24条の規定により、会長 砂川進氏が議長となった。

事務局

1. 3月21日開催の臨時会員総会議案について
前原事務局長より標記の議案について発言があった。これを受け理事会審議の結果、出席理事全会一致で承認した。
2. 平成26年度定時総会開催日について
前原事務局長より標記の議案について、平成26年6月6日(金)に開催したいと発言があった。これを受け理事会審議の結果、出席理事全会一致で承認した。
3. 平成26年度理事会開催日について
前原事務局長より標記の議案について発言があった。これを受け理事会審議の結果、出席理事全会一致で承認した。

総務部/事業部/学術部/精度保証部

会計部

1. 特定費用準備資金及び資産取得資金の取扱規程の制定について
島村会計部長より標記の議案について発言があった。これを受け理事会審議の結果、出席理事全会一致で承認した。
2. 資産取得資金の設置について
島村会計部長より標記の議案について発言があった。これを受け理事会審議の結果、出席理事全会一致で承認した。

埼臨技ひろば

第2回釣り大会のご案内

埼臨技有志釣りクラブ第2回釣り大会を平成26年4月12日(土)開催いたします。

優勝者にはトロフィー(持ち回り)と優勝盾、準優勝、3位、特別賞にも盾を贈呈いたします。多くの方のご参加をお待ちしています。

申し込み先 メール: sairingi_fishing_club@yahoo.co.jp

もしくはshigella@cancer-c.pref.saitama.jp 世話役 岡田(埼玉県立がんセンター)

※埼臨技有志釣りクラブは共通の趣味を通して会員相互の交流を目的とした会です。すなわち、ゆるーい友達作りの会ですので初心者の方もお気軽にご参加下さい。もちろん竿や仕掛けがなくても大丈夫です。釣った魚を持って帰るクーラーボックスだけあれば、竿も仕掛けもエサも氷も船長にお任せできます。世話役となっている私もでっかいクーラーボックス(キャンプで使っていたもの)しか持っていません。

開催場所は参加人数と開催日の釣果状況等を考慮して決定いたします。



求人案内

○医療法人 行定病院

採用条件: 正職員

連絡先: 049-242-0382 労務課 牛久保 直紀

○医療法人社団鴻愛会 こうのす共生病院

採用条件: 臨時職員

連絡先: 048-541-1131 検査科 山本

○みやざわ耳鼻咽喉科

採用条件: 正職員、常勤パート

連絡先: 048-745-8733 宮澤理恵

○医療法人三慶会 指扇病院

採用条件: 正職員、臨時職員

連絡先: 048-623-1103 総務課 関根

○さいたま市立病院

採用条件: 臨時職員(パート)

連絡先: 048-873-4111 中央検査科 手塚

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

あ と が き

3月になりましたが、まだまだ厳しい寒さが続いています。とくに先月の記録的な大雪では、生活や企業活動にも深刻な影響が発生しました。埼玉県でも道路が遮断されて、孤立した集落がありました。

この寒さはいつまで続くのでしょうか。1日も早い春の訪れを期待する声が聞こえてきます。

さて、先月の2月19日にも臨床検査技師の国家試験がありました。合格発表は3月末にあり、4月からは新人技師を迎え入れる御施設もあると思います。埼臨技会員の皆様、新人技師が入職した際には、ぜひとも臨床検査技師会への入会をお勧めください。技師会活動や研修会に参加することにより自己のスキルアップを図ることができます。ぜひともこの点も踏まえて技師会の入会のお勧めをよろしくをお願いいたします。

(奈良 記)

